

麻生リトル・ラグーメン



神奈川県川崎市

麻生ラグビースクール

『22年度』一年間有難うございました!!

校長 三浦 幸宏

22年度も最終号となり、一年間を振り返りと走馬灯の様に色々な事が思い出されます。1年を通し大きな問題も無く、大きな怪我也無く終了する事が出来ます事に関し関係各位に心より感謝する次第です。

小学部では、県大会で優勝する学年は無かったものの各学年準優勝と素晴らしい成績で終わる事が出来、来年に向け楽しみが増えました。今年度、神奈川県協会の普及育成委員会で新事業として『第1回神奈川県ミニラグビーファイナルカップ』を開催し、ミニラグビーの集大成として競技大会を開催する事で県内のミニラグビーの普及育成と発展及びプレーヤーどうしの交流と競技力向上を促し、中学生でもラグビーを続けてプレイする事を目的に行われました。代表会議である評議委員会では、賛否両論の意見がありましたが多数決により開催が決定しました。2月13・19日の2日間で行われました。思ってもいなかった大盛況の大会となり、決勝戦では素晴らしい試合内容でした。麻生の6年生は惜しくもボウル戦の準優勝となりましたが大変頑張ってくれたと思います。この大会を遣って良かった・中学生でもラグビーを続けるアンケートの回答が多かった事が何よりでした。

中学部の DAGS は今年度よりグリーン RS との2スクールでの合同となり、県大会では4位と昨年に比べ良い結果とは云えませんが、選抜に4名(麻生2名・グリーン2名)を送り出し、スタートの1年目としては良く頑張ってくれました。

日大ラグビー部の選手とは今回も1～2月にかけて練習で交流出来た事、日大ラグビー部の納会にも出席した事等日大との絆がより一層強くなってきました。

今年度の事業も順調に進んでまいりましたが3月11日の東北関東を中心にも未曾有の大震災が発生した為、13日の藤沢 RS との交流大会・19～20日の U-15水戸大会・20日の練習・21日の群馬選抜交流大会・同日春季指導者交流大会等が総て中止となりました。

27日の卒業・修了式が開催出来る事を願うばかりです。又、被災された方々にはお見舞い申し上げますと共に亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

中学部卒業と小学部修了される皆さんご苦労様でした。これから長い人生の君達には麻生 RS でラグビーを通して、優しさ・礼儀・忍耐・助け合い等を学んだ時間や経験は君達の財産です。夏合宿の事が一番思い出に残る事でしょう。あの厳しい練習に耐えることが出来た事、素晴らしい事です。必ず役に立ちます。『自信と誇りと勇気』を持ち麻生 RS 出身者として胸を張って下さい。

今年度より卒業式・修了式の日程は U-15 水戸遠征の為、全員参加出来る様 1 週間遅れの3月最終日曜となりました。

最後に、今年度の事業も無事終わる事が出来たのも皆様のご理解とご協力によるものです。

1年間ありがとうございました。

平成22年度のまとめ

幹事長 加賀 司

3/13 の藤沢 RS 定期戦は今回の東北関東大震災により中止となり、3/27 の修了・卒業式を残して、全ての行事が終わります。

麻生ラグビースクールの役員・コーチの方やご父母の皆さんの多大なご協力を頂き、無事に1年間を終えることができることに感謝いたします。どうもご苦労様でした。そしてありがとうございました。

今年度を振り返りますと4月以降に入校した生徒は19人と昨年の30人から大幅な減少です。

- ・幼児: 久保エイジ君の1人
- ・年中: 野田コウスケ君、佐々木ナルミちゃん、小坂リュウヘイ君、高谷ユウキ君の4人
- ・年長: 土方ショウジ君、卯月カイト君の2人
- ・1年: 都留コウヘイ君、都留マナミちゃん、濱田ユウキ君、中島トモキ君の4人
- ・2年: 津国カズトシ君、野田リョウスケ君、日笠ソウタ君、角田ショウ君、吉田シュンスケ君、原田カイ君の6人
- ・3年: 津国ヒロタカ君の1人
- ・4年: 大竹リュウヤ君の1人
- ・5年: なし

・6年:なし

・中学1年:牧野、嘉数、安井、富田、木下、棚橋、山藤、辻君が進級しましたが途中山藤、辻君が退校
新人コーチは菅田、河合、野田、風間、濱田和、東野、津国、柳澤さんの計8人でした。

また、3月末で退任されたコーチは加藤、宮原、池田、安井章、梅原、小澤、梅津、和田、松村さんの計9人です。長い間ご指導頂きありがとうございました。

今年はコーチ用ジャージとウィンドブレーカーを一新しました。ジャージは好評であり23年度の中学部DAGSの新ユニホームなる可能性もあり、商品対応をして頂いた山藤様ありがとうございます。

「卒業おめでとう～DAGSの4名へ」

小学部副校長 古田 十

凜太郎、翔、凌馬、雄斗、卒業おめでとう。

小学部を修了して、本当に麻生ラグビースクールの卒業ですね。

チーフコーチとして君たちを送り出してからは話す機会も減りましたが、たまの稲城での練習の際に君たちの成長ぶりを横目で見っていました。

部活との両立、3年時は受験など大変だったのではないかと思います。

小学部を卒業した時にみんなに渡される額に「継続は力なり」と記しました。

一つのことを好きになってやり続けること、やり遂げること。それによる達成感、自分自身の成長は計り知れないものがあり、それは社会でも通じるものがあります。

私たちラグビースクールのコーチは、ラグビーがスクールの子供たちに「継続」に値する素晴らしいスポーツであることを伝えたいと思いコーチを続けています。

麻生ラグビースクールで、一つでも多くの経験をして、一人でも多くの仲間がラグビーを続けてくれることを願っています。

「前へ」。君たちの明るい未来に幸あれ。

また、スクールのグラウンドに戻ってきてくれることを楽しみにしています。

技術・スキルより難しいもの

技術担当コーチ 大森 昇

小学部修了おめでとうございます。

記念すべき第1回の「神奈川ファイナルカップ」に出場し、戦った記憶が新しいところです。ボールトーナメント準優勝(!!!)でしたね。3年前の勝てなかった頃と比べると、同じチームとは思えないほどの活躍を披露しました。

メンバー1人1人のスキルは「まだまだ」です。パスは遅くて曲がる。ボールから目を離す。ボールを持つと流れて走るクセがとれない。疲れると高くなるタックルとスィープ。こう書くとどうして勝てたのか不思議な感じがします。

君達はどうして勝てたのでしょうか？ 秋季交流戦で大敗した田園RS(ファイナルカップ優勝チーム)を初戦で「あわや…」と思わせるまでに追い詰め、準決勝の茅ヶ崎RS戦では一時0-21とリードされてからの逆転を演じました。決勝の川崎RS戦でも0-28の劣勢から盛り返し、結果、敗れはしたものの接戦に持ち込むことが出来たのは何故でしょう？

君達は、麻生6年チームは「折れない心」を身に着けたのだと思います。

「勝ちたい」と願う気持ちを切らさないことが、あの試合結果に繋がったのだと思います。

大人のラグビーでも、強力な対戦相手に立ち向かうときや、大量リードを奪われると「もう勝てないかもしれない…」と弱い心がどうしても顔を出します。形勢不利な状況で、諦めずに自分たちの勝利を信じ続けることは大人でも難しいのですが、君達は「心を折らずに」立派に戦い、周囲に感動を与えました。

「折れない心」は一人では持てません。仲間同士が固く結びついた「チーム」が纏うものです。長くラグビーを続けていても、「折れない心」を「チーム」で纏う経験はなかなか出来ないものです。技術やスキルはたくさん練習をすれば身につきますが、「折れない心」を体験したことはとても幸運だったと思います。

これから、進学に伴い、いろいろな環境の変化があると思います。新しい「チーム」では直ぐには思うような結果が出ないこともあるでしょう。

でも、君達なら、きっと大丈夫。

君たちの1人でも新しいチームに居れば、「折れない心」で戦った経験を新しい仲間に伝えることが出来ます。仲間がくじけそうな時、弱音を吐いたとき、チームの雰囲気が悪いときに、勇気をもって、苦しくて、時間が掛かるかも知れないけど「折れない心」で戦うチームを作ってください。チームを作るのも、戦うのも君達自身です。期待しています。

「 信は力なり 」 …… 山口良治（伏見工業ラグビー部総監督）

中学生



2010 年度 DAGS卒業生

左上段 齊藤翔、トンプソン・ルーク龍馬、木下雄斗、射場翔太郎、種田宙至、柏木陽二
左下段 前田光一郎、森凌馬、松村凜太郎、白井吾士矛、荻原嵐



“卒業”

DAGSコーチ 小坂 頼史

はじめに 3 月11日に発生いたしました東北地方太平洋沖地震により、被災された地域の皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

卒業生、また御父母の皆様 ご卒業おめでとうございます。今年は新生ダックス(グリーン、麻生2チーム合同)になってから初めての卒業生です。彼らが DAGS へ来てから、あつという間の 3 年間でした。1 年生の時は田園、グリーン、麻生 3 チーム合同チームでした。人数が多くて、試合の時は前後半で、12 人全員が選手の入替が出来るくらい大人数でした。2 年生の時に田園が DAGS を離脱・・・だが、上級生は、3 校合同でそのまま。実力があっても 3 年生が一杯いるのでなかなか出番が回ってこない。そして最終学年では試合不足、また核となる選手の誰かがいつも怪我をして、なかなかチーム作りが出来なかった。春に FW の荻原君が肉離れ、夏に CTB 木下君の捻挫、シーズンに入り WTB 射場君、FW 齊藤君の膝損傷・・・本当に怪我に泣かされた 1 年でした。それでも何とか予選通過をして結果 4 位という結果を出してくれました。

優勝は出来ませんでしたが、非常に骨のあるチームで良かったと思います。

これから3年間積み重ねた経験を生かし、①チームの中で“今自分に出来ること”を精一杯やる、②感謝の気持ちを忘れず、③何事にも情熱を持ってチャレンジして欲しいと思います。卒業してもグラウンドに来て後輩の指導もお願いします。

3年生卒業おめでとう！



DAGSコーチ 計良コーチ

木下君、斉藤君、松村君、森君、そして DAGS3年生の皆さん。卒業おめでとうございます。

君達とは小学校3年生のころから練習・試合を見せてもらい5年生からはお父さんコーチとして関わらせてもらいました。はっきり言って、なかなか勝てなくて、6年生最後の試合で(たしか相模原戦?)コーチや親を感動させてくれる唯一の1勝を上げてくれました。こんな試合ができるのになぜ今まで実力が出せなかったのか。この子達が DAGS に行ってやっていけるのか心配でした。でも、君達はすごい。試合を見るたび3年間でここまで成長したかと改めて感動しました。勝ちたいという思いがプレーに出て、1対1で負けない気持ち、1人1人がチームを引っ張っているいいチームが出来ていました。

これからそれぞれが別の道を進んで行っても「自分がやらなければ誰がやる」の気持ちでスポーツを楽しんで「勝つ」にこだわってください。

卒業



DAGS 3年 松村 凜太郎

麻生ラグビースクールでは約10年間お世話になりました。ほとんどの学年でキャプテンまたはバイスキャプテンを任されました。今の自分が自ら人に関わっていける力ができたのはこの10年間のひとつの成果だと思っています。とびきり強いチームではなかったですが、だからこそ常に上を目指す向上心が芽生えたと思います。これらの力を持って高校でも大学でも頑張ってください。小学部時代に教えてくださった古田コーチ、外岡コーチ、教村コーチ、武井コーチ、松岡コーチ、田口コーチ、川越コーチ、池田コーチ、菅原コーチ、三浦校長、DAGS の小坂コーチ、他沢山のことを教えてくださったコーチのみなさん、「ありがとうございました！」

麻生での3年半を終えて



中学3年生 木下雄斗

麻生の練習ではラグビーの基礎から応用まで、また人としての礼儀を教えていただきました。このことを学ばせてくれたことによって、体も人間の器も大きくなりました。毎週日曜日の練習は楽しかったし、仲間といっしょにラグビーが出来たことは本当にうれしい気持ちでした。小学校での麻生の練習があったからこそ、DAGS での練習に耐えることも出来たし、2年生で U-15 選抜大会に出場することも出来た、そして、3年生で全国大会の花園に先発出場してTryをする事も出来ました。これからも麻生で学んだことを忘れずに、高校・大学でもラグビーを継続していくつもりです。

3年半という短い期間でしたが、大変にお世話になりました。

『悔しい気持ち』



3年 森凌馬

今までラグビーをやってきて、僕は数えきれないほど沢山のいろいろな経験をしてきました。

その数々の経験の中でも特に印象に残っているのは、『悔しい』経験です。

周りの皆と比べて、あまりラグビーが上手くなかった僕は、この経験をする事が多々ありました。

パスが上手く出来ない。タックルが上手く出来ない。あれが出来ない。これが出来ない。そんな経験を何度もしてきました。だからこそ『嬉しい』経験をした時の感動は一入でした。

さらに『悔しい』経験を何度も経験したことで、「もっと頑張ろう。」「努力しよう。」と強く思えるようにもなりました。

高校では、中学で何度も経験し、蓄積した『悔しい』経験、気持ちを遺憾なく発揮して、今度は他の人よりも『嬉しい』経験を何度も経験出来るように精一杯努力していきたいと思っています。

先輩方へ



中学2年 猪腰風太

先輩方ご卒業おめでとうございます。
僕が先輩と初めて一緒にプレーしたのは DAGS ではなく、僕が小学校2年生の菅平の合宿の時でした。
僕は2人の兄について夏の合宿に行き、3年生の先輩達に混ざり練習することになりました。僕はなにをすればいいのか、どうしたらいいのかも分からず、同級生もいないので誰にも何も話せず、一人見よう見まねで練習をしていました。ついていくのに必死でした。やはり上級生との練習はきつかった、ぼろぼろになった身体で一人「山光館」の風呂に入っている時、「風太!、風太!」と先輩が声をかけてくれました。
それからは辛かった練習が楽しさに変わっていきました。
そして試合にも出させてさせてもらい、この4日間の合宿は僕の心に残る合宿になり、もう一度この上級生とプレーできたらいいなと思いました。
そして5年が経ち、DAGS で一緒にプレーすることが叶いました。以前にまして身体も大きく、技術もはるかに僕等にはかなわない先輩達でした。
でもこの2年間、一緒に練習、合宿、試合を乗り越え、僕等自身も成長することが出来ました。
そしてこれから僕達新3年生は、先輩達から学んだことを、これからの DAGS に生かし、必ず今年の県大会は優勝します。
先輩方、これから違う道をそれぞれ歩む事になるかと思いますが、これからも頑張ってください。そして時間が許す時、健志台に僕達を鍛えに来て下さい。
先輩、本当にありがとうございました。

『先輩達へ』



中学二年 横尾昌哉

三年生の皆さん卒業おめでとうございます。
僕は皆さんが勉強とラグビーを両立出来ているところがすごいと思いました！
僕はそんな皆さんを見習って勉強とラグビーの両立が出来るように頑張ります!!
そして、先輩達が達成出来なかった夢を次はぼくたちが達成出来るように頑張ります!!皆さんも高校生活エンジョイして頑張ってください。応援しています。

《ありがとうございました》



中学2 小野悠太

自分は、先輩からいろいろな事を学びました。
特に、チームワークの大切さを、プレーを通して教えてもらいました。
卒業しても、ちょくちょく顔を見せて下さい。
あと、体も貸して下さい。一発で倒せるような体に、鍛えあげますので。

「3年生から学んだ事」



中学2年 須藤行雲

中学生になりダググスに入って一番やさしく教えてくれたのが今の3年生でした。
合宿の時、僕が外周で疲れてあきらめそうになったときに先輩が「あともうちょっとだ、がんばれ。」と言いながら手で背中を押してくれました。そのおかげで外周を最後まで走ることができました。ぼくもこういう先輩になりたいなと思いました。
あと3年生はつらい練習でも何も言わず一生懸命練習していて本当にすごい3年生だなと思いました。
このように3年生から色々な事を学びました。いつでもたよりになる先輩達だったので高校生になってもがんばって行ってほしいと思います。僕もこの1年間ちゃんと練習して先輩達みたいに立派な3年生になりたいです。

「一年を振り返って」



中1 棚橋耕太郎

振り替えるともう一年たっていた。早かったです。

DAGS に入る時は続けられるだろうか…部活もあるし、正直自信がなかった。今もその気持ちには変わりはないけど、ラグビーは好きだから頑張りたいと思います。

今までと同じでは進歩がないので、毎回の練習や試合に目標を持って頑張っていきたいと思います。

そして3年の先輩、卒業おめでとうございます。

これから一緒に練習が出来なくなるのは悲しいです。でも先輩の姿を思い出し、僕も先輩みたいに強くなりたいと思います。高校に行っても頑張ってください。

卒業

3年 森凌馬 の母

3年という長いようで短い期間ではありましたが、コーチはじめご父兄のみなさま、お世話になりました。

2年後、3年後子ども達の活躍を楽しみにしております。

ありがとうございました。



3年松村凜太郎父 松村 睦夫

卒業にあたって

ラグビーはそっちのけでグラウンドで草取りや仲間との遊びに明け暮れていた幼いころ、今日の凜太郎の姿を想像することはできませんでした。本当に10年余の長い間にたくさんの人にお世話になったことを最近つくづく感じます。兄に続き凜太郎もラグビーを続けていきますが、麻生の理念を身を持って実現できるよう、コーチの皆さんからいただいた熱い想いを忘れずに頑張っていきたいと願っています。長い間のご厚意に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。



中学3年生 木下雄斗の父親 木下豊三

ありがとう！麻生のみなさん

2007年10月、長男・雄斗は麻生RSに参加してから約3年半、この3月で無事に中学部を卒業することができました。当初は東京都在住でありながら、神奈川のチームに所属することに多少の懸念があったものですが、結果的に麻生RSに所属し、神奈川DAGSに参加したこの3年間の中学時代は、思い出に残る最高の時間を雄斗に与えてくれたことと確信いたします。中学1年生時にはチーム編成の変更を経験し、2年生時はAチームでの県大会出場、そして3年生時には県選抜として目標であった花園出場、などなど多彩な経験が雄斗を成長させてくれたことに、親として麻生RS及びDAGS関係各位に心より感謝いたします。この3月で私たちは転居いたします、雄斗ばかりでなく、次男・征吾、三男・援も麻生の皆様に本当にお世話になりました。今後の麻生RSの益々のご発展を心よりお祈りいたします、みなさん！ありがとうございました。

『おめでとうございます』

中学2年横尾昌哉の母

3年生の皆さん、ご父兄の皆様ご卒業おめでとうございます。

中学部でラグビーを続けるということは簡単な事ではないと歯がゆい思いをしながら息子を見守っています。

部活動、勉強との両立してきた3年生は凄い事ではないでしょうか？

ラグビーを通して学んで来たことは決して無駄ではなく高校生になって役立つ事でしょう。これから先、辛い事があってもDAGSで身体を張って頑張った事を思いだし乗り越えていける強い男(ヒト)になって高校生活も頑張ってください。

《卒業しても…》

2年 小野悠太母

一年、一年頼もしく、素敵なラグーマンになっていく中3の皆様をグラウンドで見ながら、我が息子は…？水遊びしている姿に…ため息。

それでも、合宿、試合で、先輩から頂いた技術や精神を自分なりに習得しようとしているようで…。

ここにきて、ラグビーに対する意識が変わってきたように思います。

卒業しても、ラグビー人生の目標の先輩として、輝き続けて下さい。今後のご活躍を期待しています。



6年生



教村コーチ 安井コーチ 牛山チーフコーチ 清水(賢)コーチ 矢野コーチ 清水(翔)コーチ
赤池勇大 大森鐵乃祐 野川亮 室井虹翔 小山田弦 古野裕理 曾我鷹平
伊藤コーチ 西野稜祐 東野遼太郎 田口吉兵(キャプテン) 三沢一海(バイス) 岩野将大 梅津誉

小学部修了に寄せて

6年チーフコーチ 牛山 健太郎

3月11日に東日本、東北を襲った未曾有の震災は想像を絶する被害を与え、未だ余震が続く非常事態の中でこの原稿を書いています。罹災された多数の方々を想うと言葉がありません。

今回小学部を修了する我が学校の13名には、希望と可能性に溢れる未来があります。

彼らには、未来への希望と可能性を信じることに努力が必要な罹災してしまった同世代の仲間を想う気

持ちを__ラグビーが出来る幸せを__いつまでも忘れないで欲しいと思います。

■6年生の諸君へ

小学部修了おめでとう。チーフとして2年、その前の期間を加えると6年間、君達と過ごした毎週日曜の午前中は本当に楽しかった。改めて有難う。

一緒にラグビーを続けてきた仲間をこれからも大切にして、DAGS でも(新しい環境でも)存分に頑張ってください。

■ご父兄各位

小学部修了おめでとうございます。子供達の未来に向けてラグビースクールが寄与出来たことは小さいかもしれませんが、ラグビーを介して真摯に、一生懸命、辛いことや悔しいことに立ち向かった経験はきっと糧となり財産になったと信じています。いつも温かいサポートを有難うございました。

■みんなへのメッセージ(50 音順)

(赤池勇大)

少し気持ちが弱い印象を今年一年で大きく払拭しました。練習、試合、頑張り抜いた姿に成長を感じます。いつも積極的に声を出して皆の士気を上げようと努力してくれていました。九州で新しい仲間を作ってラグビーを続けて欲しいと思います。そして、上京したときは皆に会いに来て下さい。

(岩野将大)

チーム NO.1 のスピードスター。自陣深くで将大にボールが回り、大外に向けて加速する瞬間はこのチームの見せ場の一つでした。切れ味のよい無駄のない走り。抜く、勝負、決めなければならない。数少ない大切なチャンスで何度も責任を担い、魅せてくれました。今後の活躍を期待しています。

(梅津誉)

SH、SO、WTB をこなすユーティリティプレイヤー。他の誰も真似出来ない、チームとして必要な誉だけの確かな存在感があった。そしてグラウンドにはいつも飄々とした誉がいる一方で、ゲームでは時に消えてしまうこともあったね。今のままでも無難だけど、何か一つ突き詰めることでスケールアップするはず。これからが楽しみです。活躍を期待しています。

(大森鐵乃・)

男は黙って背中で語る。静かなイメージだけど熱いプレーが身上だね。辛くても、痛くても、泣きたくても、ぐっと堪えて頑張り抜く芯の強さが印象的でした。スケールの大きなプレーが魅力で、力強い大胆なゲインが多くのビッグチャンスを生み出しました。ジュニアでの活躍を楽しみにしています。

(小山田弦)

小さい体だけど大きな声で挨拶。変わらない真っ直ぐな心。PR(2 番)に定着して、どこまでもボールにくらい付く粘っこいプレーが身上でした。ラインアウト時のスロワーとして最初苦手だったスローイングも、真面目に練習を重ねて安定しました。いつまでも真っ直ぐ、純粋に、弦らしくラグビーを続けて欲しいと思います。

(曾我鷹平)

試合中ぶつかった相手に「ごめんね」と頭を下げる純粋な優しさと、ボール争奪戦での粘りと奪ってから前に出る強さが印象的でした。今年一年、勝つための想いを、チームメンバーとして闘志を表に出せる様になって本当に逞しく、また頼もしく成長したように思います。今後の活躍を期待しています。

(田口吉兵 キャプテン)

飄々とこなしているようで、人一倍デリケートな面がある優しい頑張り屋。コーチに一番怒られていること、自分一人ではなくFW、BKそれぞれのメンバーに気を使って声をかけていること、皆が吉兵を見て、吉兵の動きを感じて、吉兵の声を聞いていました。キャプテン、一年間有難う。

これから男っぽく、より逞しく成長する吉兵の活躍が本当に楽しみです。

(西野稜祐)

チーム NO.1 の判断力。ゲインするための、トライを取るための最適な選択が出来る。出来るから求められた。より理想に近くチームを高いところへ引き上げることを。新しいステージでは才能を奢らず貪欲に。強靱な精神や次元の違うプレーを追い求めて欲しい。豊かな才能が大きく開花することを楽しみにしています。

(野川亮)

負けず嫌い。純粋な勝負へのこだわりは時に眩しいほど。理想高く、どんな相手にも怯まず、強い意志を感じさせるプレー。チーム NO.1 の体力、走力に何度も助けられました。自分を信じることと同じように仲間を信じること。1+1を2以上に出来る力を。高い能力により磨きをかけて自分一人ではなく回りのレベルを上げるプレーを身につけていって欲しい。今後の活躍を期待しています。

(東野遼太郎)

チームの危機を何度も救ってくれた突き刺さるタックル、ブレイクダウンでのオーバーも全く厭わない献身的なプレー。するするとディフェンスの間を抜けるステップ、両手でボールを持って必ずゲインする遼太郎が、ボックスの波状攻撃に厚みを持たせていました。素晴らしいセンスがこれからどんどん開花していくのが本当に楽しみです。

(古野裕理)

ひととき大きな恵まれた体躯、教わったことを理解する能力、楽しむ能力。周りをよく見ていて気配りが出来る、大人っぽい祐理でした。気の利いたコメントに、コーチは何時も和まされていました。これから潜在能力を自分でコントロール出来るようになって、スケールの大きなプレーヤーに成長することが本当に楽しみです。

(三沢一海 バイス・キャプテン)

一見クールで、メンバーの中では大人っぽい印象だけど、気合いが入った根性プレーが持ち味。強い気持ちをみなぎらせてチームを鼓舞する姿勢が素晴らしかった。BKでもFWでも対応出来るスケールの大きなプレーをジュニアでも存分に発揮して欲しい。活躍を期待しています。

(室井虹翔)

気は優しく力持ち。このチームのFWを象徴する姿は時にもどかしいこともあったけど、6年生になって気持ちを表に出して闘う男の顔も見せてくれるようになりました。本気になった時のタックラーを引きずりながらのゲインはこのチームの大切なオプションであり、そのパワーを皆が頼りにしていました。これからも期待の大型FW。スケールアップする姿を楽しみにしています。

ー以上ー

小学部卒業

6年サブチーフコーチ 清水 賢一

『六年生諸君、小学部卒業おめでとう！』

小学生二年生から五年間、君達と一緒にラグビーを通して、中学年では試合をする度に、惨敗、惨敗で辛い思いもしましたね。五年生の厳しい夏合宿から君達は変りました、その結果、県大会でも川崎に負けはしましたが、小学生最終学年に向けて期待が高まった大会でした。そして君達六年生はさらに成長をして、県大会・ファイナルカップと成績はともあれ、自分が思っている以上に熱く感動する試合を見せてくれて『ありがとう』

君達が変わった、一番は気持ちです、熱く強い気持ちを忘れないように贈る言葉として「気は技を制す」を贈ります。この言葉の意味がわかる成年になって下さい。

そして御父母の皆様、長い間ありがとうございました。グランドまでの引率、夏合宿、試合の応援等、影で子供達そして自分達コーチを支えていただきました事を深く感謝いたします。私は小学部に残りこの学年以上に県大会で全勝優勝できるようなチームを育てられるよう努力していきます。

最後に「六年、中学に上がっても気を抜くなよ！」

小学部修了おめでとう！！

6年サブチーフコーチ 安井 章

ラグビーは、体と体がぶつかり合う、痛く辛いスポーツです。だから、厳しい練習となるのは当然ですが、良く耐えて、続けてきた君たちには本当に素晴らしい！！

これから、辛いことが沢山出てきます。もう諦めて辞めてしまいたい事が、色々出てくるかもしれません。でも、その時に君たちが麻生ラグビースクールで経験した事を思い出してください。苦しい練習を全力で耐え抜き、戦ってきたことを！

君たちは、諦めず、やり抜く力を持っています。自信を持って、自分の夢に向かって突き進んで行ってください。

小学部修了おめでとう！！

小学の部修了を迎える子供と私

6年コーチ 教村 政司

終了式を迎える子供達の成長を思い出しく成ったな！何時からかな？

初めての出会いは、3年前 何度も書くがチームに成るかな？が第一印象

4年生 チームワーク 0

ボールが来ると逃げている子供、自分のボールでもないのに取りに行く子供

試合には、勝てない！！？？ 何でや！

5年生 ひょっとしたら化けるのかな？菅平合宿での正直な感想

仲間を思いやる気持ちがきつい練習の中芽生える

6年生 ヤッパリ 化けた！！ 合宿での勝利が引き金だな

好い雰囲気と思いながら県大会に臨むが、悔しいが気持ちの緩みで優勝を逃してしまった。本当に悔しい 残念だ！

FINAL CUP 県大会同様に気持ちで負けてしまった 準優勝

今年の私は例年と違い子供達と一緒に中学の部に上がる

後3年子供達と付き合っていく

私とは反比例して体力、技能が成長していく子供達を見る

期待と嫉妬で今の気持ちは非常に微妙だ

小学生から卒業し中学生に成長していく頼もしく素晴らしい子供達

何事も諦めずに前に進む気持ち

皆を思いやる優しさを忘れずに 楽しく 苦しみ大きく成長して下さい

小学部修了おめでとう！

卒業する君たちへ

6年コーチ 矢野 彰一

ラグビーを通じて学べることは、たくさんあります。なかでも、ラグビーのすばらしいところは、『チームのためには、自分の体を張ってボールを守ったり、仲間をサポートしたりする』精神を大事にしていることです。君たちは、すでにラグーマンの端くれですから、これからの人生の中で、ぜひこの精神を発揮してもらいたいと思います。特に、最近起きた東日本大震災では、信じられないくらい大きな被害が出ました。たぶん、君たちが大人になっても、まだ復興の途中かもしれません。今の大人たちだけでなく、これから大人になっていく若者たちも一緒になって、『日本』というチームを復活させなくてはなりません。その役割を、君たちが一緒に担ってくれることを期待します。

また、人間は自然の一部であり、自然によって生かされているという気持ちを持つことも、大事だと思います。自然へのすなおな態度を持ち、よりいっそう自然を尊敬することが大切です。その結果、人間同士も尊敬しあえるようになれるはずです。

最後に、君たちには、他人の痛みが感じられるやさしさといったわりの気持ちを持って、人と接することのできる人になってほしいと思います。ラグビーを続けてきた君たちには、他人の痛みが少しはわかっているはずです。そういう人こそが、真のラグーマンであり、『たのもし人』だと思います。これは、ラグビーだけの精神ではなく、実は日本人は、この精神を古くから大事にしてきました。今から800年以上前の鎌倉時代の武士たちも、この『たのもしさ』ということを大切にしてきました。いつの時代でも、どこの国でも、この『たのもし人』は、魅力のある人なのです。

君たちが、たのもしうラグーマンに成長することを期待しています。

目指せ！ジャパン

6年コーチ 宮原 照明

6年生の皆さん、卒業おめでとうございます。6年生のお父さん、お母さんご卒業おめでとうございます。

早いもので、あっという間に小学部卒業ですね！

いつも、試合前に集中出来ずに清水コーチに怒られ、夏合宿でもエンジンがなかなかかからず「ボールを取って来い！」と遠くにけられたボールをみんなで追いかけていたのは、つい最近だったように感じられます。

そんな君たちを、久々に今期から初めて行われたファイナルカップ1戦目の田園RS戦で見たとき、思わず成長振りにビックリしました。いつになく凄い試合でけっして大きくない、君たちが前回完敗していたチームに必死でタックルし、またフォワードはひるむことなく突進する姿を見て結果は負けてしまいましたが、最後に良い試合を見せていただきました。思わずその時、胸に熱いものがこみ上げて来たのは私だけじゃなかったかと思います。

これも、君たちが幼稚園や小学校低学年から今日まで毎週練習を「継続」してきた結果だと思います。

中学生になって、ラグビーを続ける人、他のスポーツを始める人、別の目標に向かって新しいことを始める人、とにかく何事も継続する事を心がけて道を究めて下さい。

『継続は力なり！』ラグビーの基本は継続です。

卒業生の中から将来ジャパン(ラグビーに限らず)になれる子が出る事を期待しています。

次世代を担う若者たちへ

6年コーチ 清水 翔太

時間は驚くほど早い。ついこの前まで「卒業する」側だった僕が「送り出す」側の人間として3月を迎えている。当然、贈る言葉など持ち合わせているはずもなく、何を書いたらいいのかわからないというのが正直なところだ。だから今回はコーチとしてではなく、君たちと同じ「麻生RSの卒業生」として別れの言葉を贈りたいと思う。

今から8年前、君たちと同じように僕も麻生RSの6年生だった。身体が小さく運動神経も格別良いわけではなかった僕は、いわゆる普通の選手だったと思う。ラグビーが好きだったかと言えばそうでもなく、ただなんとなく6年生まで続けていた。それは麻生RSを卒業してからも同じで、僕にとってラグビーは日々のルーティンワークに過ぎず、特別な存在ではなかった。

けれど麻生RSのコーチになってから、僕はラグビーが楽しくて仕方がない。君たちが不甲斐ないプレーをすれば悔しいし、素晴らしいプレーができたときはまるで自分のことのように嬉しい。僕は君たちにラグビーを教えるなかで、逆に君たちからラグビーの楽しさ、素晴らしさを教えてもらっている。

一つのトライの影には大きな努力がある。タックルで相手を倒す人、オーバーでボールを確保する人、ボールをつないでパスする人、相手を振り切りトライを挙げる人。全員の気持ちが一つになって初めてトライが生まれる。「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」という言葉に代表される自己犠牲の精神や、厳しい練習を通して培う友情、どんな逆境にも立ち向かう勇気といったものをラグビーは与えてくれる。

君たちのなかには、これから先もラグビーを続けていく人もいれば、他のスポーツに打ち込んだり、勉強に活躍の場を移す人もいるだろう。僕はそれを間違ったことだとは思わない。もちろんラグビーを続けてくれれば嬉しいけれど、大切なのは、何をするかではなく、何をしようともラグビーを通して学んだことを自分の未来に活かすこと。そして、そのような人間を育てていくことが麻生RSの使命であり、「次世代を担う若者づくり」のあるべき姿なのだと、僕は信じている。

卒業おめでとう、また会う日まで。

小学部修了おめでとう！

6年コーチ 伊藤 信一

6年生の皆さん小学部修了おめでとう御座います。

強く、逞しくなった13人、ここまでやり抜いてきた君たちは本当に素晴らしいと思います。これからの人生で幾多の困難に遭うこともあるでしょうが、それらを乗り越えられるだけの忍耐力の基礎は十分に養われ

ているはずです。

何事にも自信を持って、前へ！前へ！

僅か2年の間ででしたが楽しいラグビーライフを過ごさせて頂くことができました。まだまだ一緒にラグビーをしたい気もしますけど、これからの君たちの活躍を期待して、卒業おめでとう。そして多くの思い出をありがとう御座いました。

6年を終えて

6年キャプテン 田口 吉兵

僕は麻生ラグビースクールにいた8年間を通じ「あきらめない心」や「仲間の大切さ」を学びました。

「あきらめない心」では前半負けていても後半で必ず巻き返せると思える強い気持ちを持てるようになったと思います。

6年ではキャプテンを任せられ、つらい時もたくさんあったけどチームメイトがいつも支えてくれたし応援してくれた。

これからも「仲間の大切さ」を胸に、皆への感謝の気持ちを忘れずに中学でも頑張ってラグビーを続けます。

8年間支えてくれた皆様ありがとうございました。

DAGS でもよろしくお願いします。

麻生ラグビースクール卒業にあたり

6年バイス・キャプテン 三沢一海

麻生ラグビースクールに入ってから今年でもう4年です。

最初に見学に行った日、どんな人がいて、どんな事やるのかとても不安でした。

そして見学してみて、とても興味が出て入ることの決め、そしてすぐに県大会だったので試合がありました。

そして県大会一勝もできずに終わり、試合と聞くとそのたびに、また負けるのかなと、下向きになりがちでした。

だけど4年生の後半から、試合に少しずつ、勝てるようになり5・6年の時には、試合がとても楽しみに変わっていました。

これはコーチ達が夏合宿や練習時に教えてくれた事、そしてみんなが、がんばった結果だと思います。

ぼくは麻生ラグビースクールで、努力して練習すれば強くなれるという事を改めて実感しました。

この事を活かして、中学でもがんばっていきたいと思います。

終了式

6年 小山田 弦

6年間ラグビーをつづけられて最高だった。タックルやパス、ラインアウトなどのラグビーの基がきたえられました。ダックス行ったら本かくてきな練習に移ります。なので、ダックスに行ってもがんばりたいです。今までありがとうございました。

「ラグビーのチームメイト」

6年 室井 虹翔

ぼくは、2年生の夏に体験ではじめて、ラグビーを経験しました。

その後、入校したのは秋でした。最初はチームのみんなは仲間というより友達って感じでした。

でも、毎週の日曜日の練習や試合、合宿などをやっていくうちに、友達っていうより、「仲間」「チームメイト」という存在になりました。

ぼくは、練習がつらくやめようと思った時がありました。

でも、友達やコーチに励まされ辞めませんでした。

ラグビーは、仲間と心が通じてないと、得点につながらないスポーツなので、仲間に励まされ今までやってこれたと思います。

ぼくは、ラグビーを通して、沢山のことを学び、経験することが出来ました。

この経験を生かして、中学に行っても DAKS で頑張ろうと思います。

ラグビー

6年 東野 遼太郎

ぼくは、麻生ラグビースクールを約5年間やっていました。この5年間はすごく楽しく過ごせました。

ぼくの一番の思い出は、6年の県大会です。結果は、優勝ではなかったけれど、悔いの残らない試合にできました。こんないい試合にできたのは、仲間を信頼しあったからこそできたのだと思います。

中学生になっても、高校生になっても、一生、麻生ラグビースクールで習ったことを忘れません。

最後に、新6年生のみなさんへ。県大会で優勝してください！！おねがいします。

7年間のラグビースクール

6年 野川 亮

麻生ラグビースクールに入校して7年間、ラグビーのこと、ラグビー以外のことまで、たくさんのことを教えて下さったコーチの皆さん、本当にありがとうございました。

7年間いろんなことがありましたが、なかでも一番心に強く刻まれているのは、最後の夏合宿です。負傷者が多数出るくらい厳しい練習でしたが、今となってはとてもいい思い出になりました。県大会、ファイナルカップでタイトルが取れなかったことが、今でもとても悔しいです。三浦校長はじめコーチの皆さん、今までお世話になりました。コーチの皆さんに教えて頂いた事を、中学、高校、大学、社会に出てからも生かしていきたいと思います。今まで本当にありがとうございました。

8年間のラグビー

6年 赤池 勇大

僕は この8年間で振り返ってみた。

初めてラグビーを見に行った時は怖く チームメイトの中に入れなかった。

年中の三月に入校。楽しくプレイ？していた。

1年や2年の時も楽しくラグビーが出来ていたと思う。

そして3年。初参加の菅平合宿 県大会。練習も一段と激しさを増してきた。この頃は 負けてばかりのチームであったが 4年からは徐々に勝てるようになってきた。

勝てるようになるほどラグビーが楽しくなってきた。そして 5年県大会での川崎戦。初めて泣いた。あれほどの屈辱的な気持ちになったのは初めてだった。次は絶対勝つてやろと思いつつ6年になった。みんなのテクニックやプレー そして仲間を思いやる気持ちが強くなってきた。そして その気持ちが神様に届いたのが県大会。川崎と戦うことが出来 結果は勝利！！このことはいつまでも忘れられないだろう。しかし ファイナルカップのボール戦決勝の相手は宿敵川崎で 県大会の時とは全く違う川崎に惜敗。僕はまた涙した。1回戦で戦った田園との「僕たちも優勝するので 麻生さんもボール戦で優勝してください」という約束を守れなかっただけでなく またしても負けたという悔しさだった。その次の週 また川崎との交流試合。結果は引き分け。リベンジは果たせなかったものの達成感を感じた。川崎とはいつまでも良きライバルでいたい。

そして次の日大Gでの練習。今までお世話になったコーチたちは別の学年に行ってしまった。その時寂しさも感じたけれど もうすぐ卒業という気持ちも込み上げてきた。

こうやって8年間で振り返ってみたが やっぱり仲間は大切だなと思う。そしてラグビーで学んだ事を中学生になっても 大人になっても忘れないで行こうと思う。

ラグビー最高！！

麻生ラグビースクール卒業にあたって

6年生 岩野 将大

僕は4年近く麻生ラグビースクールにお世話になりました。5、6年の2年間はラグビーが生活の一部でした。

ラグビーを通して違う小学校の友達が出来ました。日曜日しか会えないのにいつのまにか同じ小学校

の友達と同じくらい仲良しになれてうれしかったです。

またみんなで頑張った合宿、練習、試合はとても心に残っています。悔しい事もたくさんありましたが6年生のメンバーと最後まで続けられた事を誇りに思います。

これから中学になるけどチャレンジする事を忘れずに頑張ります。

コーチ、いままでご指導ありがとうございました。

6年生のみんな、これからもずっと仲間でいような。

麻生ラグビースクールで得たこと

6年 梅津 誉

麻生ラグビースクールで学んだことは、たくさんあります。1つはチームの仲間と目標に向かって頑張れたことです。練習や試合の時励ましあったり、協力してこれたのでチームの仲間と頑張れました。

2つめは、集中することの大切さです。僕は始め意識していなかったのでプレイもうまくなりませんでした。でも意識することにより技術も習得できるようになりました。3つめは、試合にかかった時のうれしさです。このうれしさはただ試合をするだけでは得られないものでした。全力で試合をした時だけ得ることができました。このようなことを得ることができたのは、コーチがいろいろなことを教えてくれたからだと思います。コーチが教えてくれたことを生かして中学になっても頑張っていきます。

ありがとうございました。

7年間のラグビー

6年 曾我 鷹平

僕は年長からラグビーを始めました。

それから7年間、色々なことがありました。きつい練習がいやになったこともあります。それでも、ラグビーをやっているのは、仲間がいたからだだと思います。つらい時にははげまし合い、うれしい時には喜びをわかち合う仲間がいることで、自分は一人ではないのだと、つらい事に立ち向かう勇気が持てるのです。

それに、ラグビーは仲間と共にひたすらトライを目指すスポーツです。そこには、一対一とはまた違った楽しさがあります。どんな楽しさと聞かれても、うまく説明できないのですが、僕はこの楽しさが好きです。

以上が僕がラグビーをやっている理由です。

それと、今まで僕を教え、導いて下さったコーチのみなさん、ありがとうございました。

今までのラグビーを振り返って

6年 大森 鐵乃祐

僕がこの麻生ラグビースクールに入ったのは3年の終わり位の時だった。

初めはルールも何も分からず、ラグビーはどうやってやるのだろうと思い、「ふつうに」ラグビーをやっていた。こうして「ふつうに」ラグビーを続けているうちに、だんだんとルールもかなり覚え、4年生になった。

このころまで「ふつう」にやっていたが、練習は厳しくなり、1人1人が考えてプレーしなくてはならなくなるし、今までどおりの「ふつう」ではやっていけなくなり大変だった。だが、そういう厳しく辛いことを仲間といっしょに乗り越えることが出来るようになった。

こうして、いつの間にか4年生、5年生となり、あっという間に6年生になってしまった。6年生になるとさすがに今までとは違う。だが、僕たちは努力して強くなった。それはコーチたちのおかげです。本当にありがとうございました。

卒業にあたって

6年 古野 裕理

ぼくは3年生の終わりからラグビーを始めました。

たった3年という短い間でしたが、たくさんの人に支えられて楽しくラグビーをやることができました。
中学ではDAGSに行けるかどうか分からないけど、ラグビーは続けたいと思っています。
最後に、ぼくを支えてくれたコーチの方々、仲間のみんな、本当にありがとうございました。

8年間を振りかえって

6年 西野 稜祐

僕は幼稚園の年中からラグビーを始めた。小学部のラグビースクールを卒業して、長い間共にラグビーを続けた仲間とプレイが出来なくなるのはとても残念だ。
自分のポジションが出来、ラグビーを楽しみと思うようになったのは3年生位からだった。また、その頃からじょじょにサインプレイも出来るようになり、僕達のレベルも段々と上がってきた。

そして6年生の県大会。横浜RSと大和RSに負けて、優勝を逃した。しかし、川崎RSにはこれまで一度も勝てていなかったが、最後の県大会で逆転勝ちできた事は最高にうれしかった。

ここまで強くなれたのは、コーチの指導のおかげだと思います。8年間本当にありがとうございました。
僕はこれからもラグビーを続けようと思う。自分の理想のプレイヤーになるために、高い目標を持って、それに向かって頑張りたいと思う。

小学部を終えて

6年 田口吉兵 父 田口幸吉

兄同様に好き嫌いを訊く前にラグビースクールに入校させ、気がつけばもう6年生も終了になるんだなと少々寂しい気もします。

6年ではキャプテンも仰せつかり本人的にはかなりのプレッシャーに負けそうになりながら頑張ったと感じています。

キャプテンとして出来たかどうかは別にしても彼なりに考え、与えられたミッションに応えようと良くやったと思っています。

我が子のキャプテンとしての思いを考えると歴代の主将達はしっかりした気持ちを持ちチームをまとめてきたんだと今更ながら感心します。

兄に「キャプテンになって中学でやらなかった子はいねえぞ」とかなり強いプレッシャーを掛けられながらDAGSに進みます。

少し前まで中学ではラグビーはやらないと言っていましたし、親も無理にとは思っていませんでしたが、県大会終了時にはDAGSへ行くと言ってくれました。

私的には兄の姿を見て、どこかで「お兄ちゃんかっこいい」という思いがあったのかなと感じています。

兄は高校でラグビーを卒業しましたが、これからは吉兵の追っかけが出来ることを嬉しく思って応援していきます。

兄は引き続きプレッシャーをかけ続けると思いますが……。

終了式を迎えて

6年 小山田弦 父 小山田俊広

弦もいよいよ終了式。6年前、王小のグラウンドから始まった君のラグビー人生。まだ始まったばかりだけれどこの6年間でたくさんの思い出を作ったことでしょう。小さな体で大きな声を出して頑張った練習やいろいろな試合。4年生の終わりから自転車で通った日大グラウンド。父もまた、たくさん思い出を作ることができました。4月からダックスに行くとなかなか一緒に練習できないけれど、日大での練習のときはまた一緒に自転車で行こう。最後にコーチの皆さま、ご父兄の皆さま、そして素晴らしい6年生の仲間たち本当にありがとうございました。

麻生ラグビースクール

6年 野川亮 母

香港から帰国してわずか1カ月で麻生ラグビースクールに出会えたことは、我が家にとって本当にラッ

キーなことでした。幼稚園、小学校とは全く違うお友達、ご父兄、コーチの皆さんと一緒に練習や試合、様々な行事に参加させて頂くなかで、親子共々多くのことを学ばせて頂きました。協力し合うこと、助け合うこと、励まし合うこと、ラグビーを通じて学んだ多くのことを、今後に生かしていってもらいたいと思います。7年間お世話になりましたコーチの皆さん本当にありがとうございました。父兄としてはあと2年間小学部でもお世話になりますので、今後とも宜しくお願い致します。

よくやった！勇大。

勇大父：赤池康彦

勇大は試合でも練習でもFWとして体を張っていました。仲間の良いプレーには一緒に喜び、仲間の失敗や相手チームのプレーを非難せず、けっして目立ちませんが正々堂々プレーしました。

そして、6年生最後に麻生RSでラグビーをやり遂げた大きな自信を得ました。よくやった。

「ラグビーは子供をいち早く大人にし、大人にいつまでも子供の魂を抱かせる」

過去のリトルラグーマンで何度か出てきたこの言葉を実感しています。

麻生RSのおかげで勇大は”大人”になる最高の一步を踏み出せました。

厳しくも本当は優しいコーチ陣、なかなか勝てない時期も暖かく見守るお父さん、お母さん方、6年生のみんな、ありがとうございました。

怪我のデパートひとまず閉店します？

赤池勇大の母 赤池操

何度痛い思いをしたらろう？

何枚湿布を貼っただろう？

毎週月曜日は筋肉痛

何度息子のマッサージ？（反対じゃない？？）

いろんな経験したよね。

吸入もギブスもレントゲンも

CT(人生二回目) おまけに 救急車(人生二回目)…。(生きてて良かった)

万年テント組リーダー(笑)

体力づくりに

週二スイミング

どうにかテント組

抜け出せた最終学年

意気揚々臨んだファイナルカップ。

白熱した試合 ミニ海老蔵状態(笑)(今年の裏トレンド??)

試合出たいのに コーチに止められ(涙)リーダー復活(いえい!!)

後で 色んな人に「どうしたの？」

「ラグビーで」と 答えたら

「カッコいい～」と黄色い声。byスイミングの年配女性コーチ(笑)

次こそは 同世代に「(心が)カッコいい～」と言われてね(母の願い)

勇大が風の谷幼稚園に入園した直後 初めての場所に慣れなくて不安な気持ちでいた時、優しく紐コマのやり方を教えてくれたのは 当時年長のクラスにいた 猪越風太くん(現在DAGS二年)でした。

その後 私も ひょんなことから 風太くんのお母様と出会い ARSの存在を知りました。

さらに風太くんのお父様の「ラグビーはいいよ～後ろ後ろにボールを回す 奥ゆかしいスポーツなんだ。ラグビーやればいいんだよ」

とのお勧めもあり 勇大年少の三月 王禅寺ふるさと公園にて 入校させていただきました。

その時に対応してくださった(多分…三浦校長)に「息子より貴方(おまえ)が鍛えた方がいいな」と

有難いお言葉を頂き めでたく夫も麻生RSに入校決定!!(以降 息子以上にハマっていく夫は皆様

ご承知のことと思います)

そんな不思議な出会いから始まったARS生活八年。

幼児から少年と変わる大切な成長期に 親以外の素敵な大人たちに囲まれ
厳しくも温かい無償の愛という栄養を沢山注いでいただきました。

そして

汗にまみれ 同じやかんから 水を飲み

同じ目標に向かって喜怒哀楽を共有した仲間たちとの かけがえのない時間。

きつい練習を乗り越えたからこそ味わえる悔しさも 喜びも 楽しさも知ることが出来ました。

その時の心の輝きは 決して失われることはない宝物として みんなの中で静かに輝き続けるのでしょ
う。

自分の子のためだけでなく 時には 麻生全体のため

一致団結して子どもたちの活動(スクール)を支える親の姿は

少なからず子どもたちの見本にもなったはず？(とっても楽しかったけど そう信じてなきゃやってられ
ない？(笑))

それらは どれも 彼らが一人の人間として育つ為に必要な心の栄養素の一部となっていると信じま
す！！

そんな有意義で楽しい時間も 四月からは みんな それぞれ次のステージへと移行します。

赤池家は 麻生区を離れ 北九州の小倉にて 一からのスタートとなります。

ARSでの八年間に捲いていただいた種が これから勇大の中で どんな風に育ち どんな花を咲かせ
るのか?? 本当に楽しみです。

もしも 捻くれた花が咲きそうになったら 有無言わず(笑) 直ちに新幹線に乗せ 寝袋&ヘッドキャッ
プ持参で里帰りさせますので

どなたか拾って LOVE注入(笑) どうぞ よろしく願いいたします。(笑)

最後になりましたが

麻生ラグビースクールのますますのご繁栄と 皆様のご健勝を祈念して

この原稿を終わりにしたいと思います。

宝物のような八年間を本当にありがとうございました。

出会えた皆様 すべてに心から感謝を申し上げます。

子どもが好きになれた

6年父 曾我浩

6年生のみなさん、卒業おめでとう。

コーチのみなさま、子供たちに対して、愛情を持ってあたたかく見守っていただきありがとうございました。

鷹平は、年長からお世話になりましたが、その頃、他のパパの車に乗せてもらったときに、ラグビーを
するきっかけを聞かれ、「パパにだまされた」と思っていたようです。

ふるさと公園や、王禅寺小学校で練習をしていた頃は、いつものんびりしていて、このまま続けていて
も、皆さんの迷惑になりそうだから、やめようかと思ったことも何度かありました。

いま、6年生まで、ラグビーを続けていて、本当に良かったと思います。

それは、私自身も子どもたちに教えてもらったことがあるからです。

誤解をおそれずに言えば、私は他人のお子さんを特段かわいいと思ったこともなく、「普通」でした。

でも、毎週、この学年の練習を見たり、コーチとしてかわるようになってからは、自分の子どもだけ
なく、「他人の子供」も自分の子どもと同様に、好きになれたのです。

ただ、好きになったというよりは、いまはやりのドラマネ言葉でいえば、「真摯な姿勢」で、その子のこ
とに向き合うことを教えてもらった気がします。

そのことは、他の学年のコーチとして、活動させていただいていることにつながっています。

みなさんには、中学になっても、DAGS でがんばってほしいと思いますが、いつもでも大切な仲間、共に
生きる仲間として、付き合っていってほしいと願っています。

2019年には、お互い彼女を連れて、W杯を1試合くらいみんなで見に行ってください！
本当に、卒業おめでとう。

前へ前へと子どもは駆けて、親は歩いて

6年母 曾我千文

ついに卒業の日がやってきました。ともにグラウンドを駆けぬけ、この晴れの日を迎える子どもたちを、心から誇りに思います。そして、今日まで子どもたちを大切に見守り、育ててくださったコーチの皆様にお礼申し上げます。

鷹平は小さい時からおとなしく、部屋で遊ぶことを好む子どもでした。およそラグビーをやるようなタイプではなかったし、事実、毎週いやいや父親に連れられて行くのを見て、最初はやめたほうがいいのではないかと感じていました。将来、自分の選択としてスポーツに取り組むことがあれば、それでいいと思ったのです。一度だけ、主人にそう言いかけたことがあります。「言いかけた」というのは、途中で「それ以上言わないでくれ」と言われて、最後まで言わなかったからです。主人の真剣な目を見て、子どもには、いやなことをやる経験もまたよしと、私も腹を決めました。

そんな親の心配など振り切って、子どもはぐんぐん進化していくものでした。

四年生の終わりごろから、チームの中での自分の役割をつかんできた言動が見えてきました。ラグビーへのこだわりも、口にするようになってきました。そのうち、毎晩筋トレをするようになりました。こうなると、私は、トライ目指して仲間と走る鷹平の、届かない背中に向かって、ただ声援を送るだけ。グラウンドで仲間と自分を鼓舞する、鷹平の少し大人に近づいた大声を聞くことは、私にとっては何にも代えがたい感動でした。

あるとき、コーチから「鷹平にはみんな癒されるんですよ。鷹平の声を聞くと、つらい時にも安らぐんです。」と言っていたことがあります。13人全員が癒し系では、ゲームも成り立たないでしょうに、一人ひとりの、優れた個性に囲まれることで、鷹平の持ち味が活かしていただけているのだと、感謝の気持ちでいっぱいになったものです。

そして、全員の子どもの愛を注ぐお母さん方が、これまた本当に、どうしてっていい方ばかりで、楽しい思いをたくさんさせていただきました。ルールもあやふやな私が、仲間の活躍を見て、「あれは、あの子の得意技だね！」と喜んだ後で、なぜ自分がそれを知っているのか、不思議な気持ちになったものです。不器用なりにファミリーになれたかなという気がしています。

そして・・・、影の立役者の父は、ますますどっぷりとARS化が進行しています。どうぞ皆様、今後ともよろしくお付き合いをお願いいたします。

息子の卒業にあたって

6年西野稜祐の父西野裕三郎

校長ならびに6年生のコーチの皆様、これまでのご指導ありがとうございました。おかげさまで、約8年間のスクール生活を無事に終えることができました。スクールを通して家族共々色々経験させていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。息子には、今後もラグビーを通じて、様々な経験をしたいと願っています。

八年間のラグビー生活

六年 西野 稜祐の母 西野 みのり

麻生ラグビースクールにお世話になり八年。今から思えば、あっという間の八年間でした。

幼稚園の頃は、王禅寺公園の草むしりが日課。コーチの膝の上に座って、嬉しそうにしていたのを覚えています。

大人しい子が多く、負けても悔しくもない。熱くなるのは、母ばかりというチームでした。

どうなるのやら？と心配ばかりしていましたが、校長を始め、コーチの皆様のお陰で、立派なラグーマンに成長する事が出来ました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

小学部は卒業となりますが、大好きなラグビーは、続けて行く予定です。今まで教わった事、仲間の

切さを忘れる事なく、自分の夢に向かって進んでいってほしいと思います。

私は、息子の追っかけとして、今後も応援していきたいと思っています。

最後になりましたが、六年の母達へ。私達のチームワークは、最高でしたね。皆さんのお陰で、私も沢山の宝物をいただきました。進む道は違いますが、たまには集まり、昔話に花を咲かせましょう。

お世話になり、有難うございました。

5 年生



卒業する六年生の皆様へ

5年生 チーフ安井絹子

小学部のラグビー生活お疲れ様でした。これから様々な夢と希望を持って中学生生活に入ると思いますが、しかし世の中は不景気になり、ひところのようにお金さえ出せば ほしいものが手に入れられるという時代ではなくなりました。

そんな中で 自分がほしいものは何か？本当にあきらめたくないものは何か？これ！とこだわれるものは何かが見つかれば人は強くなれると思います。そしてその模索の中で自分が何者か、何を大切に生きていくのかが見えてくるでしょう。

自分のこれ！がある人は高価なブランドを身にまとう人より私は カッコいいと思うし、誰かのこれ！と自分のそれ！は違って当たり前です。

そして成長したときに、社会で生かされてきたものとして、たくさん世の中に還元できる大人になってください。そのときの喜びは計り知れないものがあります。

卒業おめでとう！

卒業おめでとう！！

5年 エラガ デヴィッド

6年生のみんなには合宿の時や練習の時とても優しくしてくれてありがとう

6年生と練習試合をした時なかなか点を取れなくて悔しかったけどやっぱり6年生はすごいなあと思いました。

2月の川崎戦の試合を見て沢山見習う所があった僕たちもあれくらい力強いプレーができる様にがんばります！

ぼくも 中学生になったら DAGSに 行くから待っててね。

「6年生へ」

5年 白川 幹斗

6年生のみなさん卒業おめでとうございます。

いよいよ中学生ですね。

いよいよ僕たちの学年が最高学年になりました。僕たちみんなが引っ張っていけるかわかりませんが、頑張りたいです。

僕は、6年生のスピード感があるタックルやスタミナのある走りやとても大きな声、いつも明るいチームワークなどを真似して、県大会で優勝したいです。

中学校やダックスでも頑張ってください。

「6年生ありがとう」

5年 藤原卓也

今までありがとうございました。6年生と試合をしたら、6年生はFWの当たりが強く、BKは足が速くて強くていい相手になって試合をしたらたくさんのことを学びました。ぼくも6年生のように足が速く、当たりを強くなりたいです。

中学校に行っても元気でいて下さい。

「6年生のみなさんへ」

5年生 山本 凌介

卒業おめでとうございます。

僕は、6年生との思い出がたくさんありますが、特に思い出深い出来事は2つあります。1つは、11月29日に行ったボールボーイです。5年生は、僕とデビで6年生は、きっぺい君、りょうたろう君、にじと君、げん君、ゆうだい君がやりました。

僕とデビは、初めてテレビに映ると牛山コーチに言われて超緊張していました。

でも6年生が肩の力を抜いてくれるかのように、僕達にやさしく接してくれて安心しました。そのおかげで僕達は、何も失敗せず良い思い出になり終わったと思います。

もう1つは、ファイナルカップです。6年生はボール戦の決勝戦までいき、その決勝戦の相手は川崎ラグビースクールでした。その川崎ラグビースクールには惜しくも負けたけれど、キャプテンのきっぺい君やりょうたろう君などが、でかい相手に怖がらず低くタックルをしていたのですごいなあと思ったので、僕もでかい相手は怖いけど勇気を出してタックルをしてチームに貢献したいです。

そして6年生が僕達にやさしく接してくれたお返しに、僕は6年生を笑顔で送りたいです。そして僕達は、新6年生になり、新5年生や下級生を引っ張っていくと共に、やさしく接していきたいと思います。

「6年生！卒業おめでとうございます。」

5年生 山中 康大

6年生のみなさん、卒業おめでとうございます。これまでいつも僕達下級生を引っ張ってくれてありがとうございます。6年生との思い出は試合で何度も負けたことです。3-4年の頃は惜しいこともあったけど、最近ではすっかり差がついてしまいました。僕達も強くなっていると思いますが、それ以上に6年生は強くなったと思います。特に試合中に一人でトライをとった時に、「一人で行かずにみんなでつないでろうぜ！」と声をかけあっていたのをすごいと思いました。

ありがとうございました

5年生 亀田 幹太

六年生の皆さん、今までありがとうございました。一緒に試合をしたり、練習をしたりした事を大切に、これから僕は強くなっていきます。初めての合宿で、僕達が3年生の時に試合をしたことを今でも覚えています。今までは違う一学年上の人達と戦うのはとても怖かったです。でも六年生が全力を出してくれたので、とても勉強になりました。六年生、今までありがとうございました。

「6年生の皆さま」

5年生 白川 幹斗の母

6年生の皆さま、ご父兄の皆さま卒業おめでとうございます。
初めて参加した菅平の合宿の時から、ついに一度も6年生の壁を乗り越えることはできませんでした。今後は、OBとして今の5年生の成長を見守って下さい。
6年生のご父兄の皆さまには、母の会や菅平合宿はじめ様々な行事で、私たち5年の母達を温かく見守り支えてくださりありがとうございました。

「みんなを信じて、最後までがんばろう！！」

5年 山中 光子(山中康大の母)

6年生の皆さん、ご卒業まことにおめでとうございます。わが子の学年は6年生に全く歯がたたなくて、悔しい思いをしたことなど含めて、6年生から学んだことがたくさんあると思います。本当にありがとうございました。

ついにわが子のチームも最高学年！！来年の今ごろには、今の6年生のようになれるのか。。。と思いますが、それを目標に1年がんばってほしいものです。

新6年の良いところは、本当に皆が仲が良いこと。そして、いたわりあって、信頼していることだと思います。人数が少ないからこそできた絆は、とても強いと思うので、試合のときも仲間を信じて、最後まであきらめずにプレーしてもらいたいと思います。試合中も、声が出なくなってしまうことが、よくあるので、元気すぎる？母達がいつも一生懸命応援しています！！君達も、負けなくらい、声出していこ～！！

最後に、いつも細やかに、準備をしてくださって助けてくださった6年のご父兄の皆様ありがとうございました。

「2010年度 卒業生へ」

4年生チーフコーチ 小作 紀昭

“小学校の部”卒業、おめでとうございます。

麻生ラグビースクールではどんな思い出ができましたか？

(学校以外の仲間との時間はどんな記憶として残るのでしょうか？)

みんなの目標(トライ？、勝利？、全勝優勝？)に向かって、自分の本気を出せましたか？

(思うように気持ちが出せなかったことがあったとしても、その気がある限り、これから幾らでもチャンスはやって来ます。)

コーチが小学生の頃は学校の友達と野球したり、サッカーをしたり、楽しいだけの時間は君達と同じくらいあったと思います。

だけど、君達みんなのラグビーの時間。本気になって勝負して喜んで、悔しがって…達成感を感じる時間はそうはなかった。(君達をうらやましく思っています。)

ラグビーのグラウンドには学校では経験できないものが、麻生ラグビースクールにはあったはずです。

川崎市 RS とは県大会、ファイナルカップ、交流戦と3回対戦(1勝1負1分け)。

交流戦は引き分け、試合後の円陣はやり切った感を遠目に感じました。
中学では、麻生の仲間＋各々の学校で“いい仲間”を見つけてください。ラグビーが続けて行ける環境があることを願っています。いつか麻生のコーチとして後輩を指導してくれることを願っています

卒業おめでとう

3年チーフコーチ 曾我鷹平

6年生のみなさん、卒業おめでとう。

目立った戦績ではなかったかもしれないけど、皆さんが成長していった姿は、後輩たちを勇気づけてきたと思います。

みなさんとは、3年生までコーチとして一緒にラグビーをしていました。

久しぶりに、体をあわせた5年生の菅平合宿では、体の大きさだけではなく、全てにおいて、「力強く」感じました。

一番変わったのは、「試合に勝ちたい」という気持ちが素直に表せるようになったからではないかと思います。

コーチとしては、子どもたちに技術を伝えることだけでなく、ひとりひとりに自信をもたせることで、チームは大きく成長していくと思います。

勝てる気がしなかった⇒負けるような相手じゃなかった⇒ボウル戦で優勝したい！

これほど、成長した学年になれたのは、牛山コーチ、清水コーチはじめ、フォワード、バックスの子どもたちの性格をよく把握しながら、叱咤激励してくださった全てのコーチのみなさまのおかげです。

また、優勝はありませんでしたが、中学に行っても多くの子供がラグビーを続けることが、USHIYAMA TEAM が胸を張って自慢できる大きな証です。

6年生の卒業にあたって、かかわっていただいた全てのみなさん。どうもありがとうございました。

中学に行っても、仲間を大切にしながらがんばってください。

小学部卒業おめでとう

新3年 チーフコーチ 山本 慎一

6年生のみんなとは、昨年の夏合宿で少しだけ一緒に練習をさせていただきました。

今までは、外からしか見たことがなかったのですが、その印象ではどちらかというと少しおとなしい子供が多かったように思っていたのですが、今回お手伝いさせていただいた時には、よく声が出て、顔つきやプレーもとても激しいものでした。さすがに6年生らしいあたりの強さがあり、時には涙を流しながらも歯を食いしばって練習している姿を昨日のように思い出します。これからもラグビーを続けていただき、将来は再びコーチとして麻生ラグビースクールに帰ってきてくれることを願っております。

がんばれ！！ 6年生

試合結果

＜第1回神奈川県ミニラグビーファイナルカップ 6年生＞

日時：2011年2月13日(日)

場所：三菱重工相模原グラウンド

1回戦 麻生● 7-35 ○田園

ボウルトーナメント

1回戦 麻生○ 5-49 ●秦野

日時：2011年2月19日(土)

場所：保土ヶ谷公園ラグビー場

準決勝 麻生○ 35-21 ●茅ヶ崎

決勝 麻生● 14-35 ○川崎

＜定期戦:川崎市 RS 交流大会＞

日時：2011年2月20日(日) 08:40~12:00

場所：等々力補助グラウンド

参加：川崎市 RS、麻生 RS

- 幼児 B(年中)： 麻生 ●10-35○ 川崎市 (5-3-5)
- 幼児 A(年長)： 麻生 ○30-25● 川崎市 (5-3-5)
- 1年生： 麻生 ○40-35● 川崎市 (7-4-7-4-7)
- 2年生： 麻生 A ○35-25● 川崎市 A (7-3-7)
麻生 B ●10-50○ 川崎市 B (7-3-7)
麻生 C ○45- 5● 川崎市 C (7-3-7)
- 3年生： 麻生 A ●20-45○ 川崎市 A (12-4-12)
麻生 B ● 5-40○ 川崎市 B (10-5-10)
- 4年生： 麻生 A ○80- 5● 川崎市 A (12-3-12)
麻生 B ○65-10● 川崎市 B (12-3-12)
- 5年生： 麻生 ○20-15● 川崎市 (12-4-12-4-15)
- 6年生： 麻生 △35-35△ 川崎市(12-4-12-4-15)

編集後記

東北地方を襲った大地震と津波、その後の大混乱の中でのリトルラグーマンの執筆を皆様にお願ひし大変申し訳ありませんでした。しかし、今ここに沢山の感動の詰まった文章を読むと、やはり今年も卒業期年号出せて本当によかったと思います。

6年生、麻生ラグビースクール終了おめでとう。今年も一味違った6年生の奇跡的な大化けがあったことが皆さんの文章にかかれています。この麻生の伝統は例外なく引き継がれています。中学3年生、卒業おめでとう。高校にいても、是非がんばってください。応援していきます。また、たとえラグビーを卒業することになっても、いつでもわがスクールのコーチや生徒、父母に会いにきてください。ラグビーで学んだことを忘れずに、それぞれの道でその精神を発揮してってください。(編集長毛利)

ご父母の皆さんを含め全員にもっと書いて欲しい・・・いつもながら原稿〆切に間に合わず・・・

反省です・・・(中学小坂)

3・11震災を前後しての各位からの寄稿、混乱するなかでの編集になりました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興を祈念しております。頑張れ東北！頑張ろう日本！！(6年伊藤)

3月11日に突然、東北地方を襲った大地震、福島原発事故と不安感いっぱいの中で、無事、卒業式を行えたことは嬉しい事です。新6年生も卒業生の熱い気持ちを継承し、また後輩に引き継がれる事を望みます。ありがとう。(5年木下)

3月11日に東北地方を襲った大地震、被災地だけでなく、日本全国が混乱しております。世界中が日本のために祈ろう(Pray for Japan)と言ってくれています。まさに All for One, One for All ですね。(宮澤)